

より良い景観検討のためのカルテ（チェックシート）

記入年月日：令和2年10月5日

チェック担当課：公園緑地課

事業の概要	
事業名	新名神高速道路高架下公園整備事業
事業個所・対象地	川西市西畦野1丁目 地内
事業期間	平成30年10月～令和2年6月
事業の対象となる 公共施設等	道路 橋梁 河川・水路 公園・緑地 公共建築物等
事業に含まれる要素 (個別指針より)	法面・斜面 擁壁 護岸 舗装 付属施設(防護柵、公共 サイン) 建築物
構想・計画段階(各事業共通)	
項目1	景観形成の指針を把握する。
項目2	共通指針(全体指針A-1～A-5、B-1～B-5)の内、本事業で特に配慮する指針と具体的に配慮する事項を記入する。
(例) B-3	(例) 歴史・文化的背景を考慮するため、現地調査を実施する。
A-1	・検討の初期段階から地元協議を行い、地域のニーズに合わせた公園設計を行う。 ・地域住民による維持管理活動の支援を積極的に行う。
A-4	・ハナミズキ等の植栽による季節感の演出や、シンボルツリー(シダレザクラ)を設置することで良好な景観の向上に努める。
B-3	・公園施設は、集落・歴史・文化景観類型の景観形成の方針を踏まえ、彩度を低く抑えたアースカラーを取り入れるとともに、高架下という暗いイメージを払拭した開放感ある施設配置を行う。

設計・施工段階 / 公園・緑地		
基本指針、共通指針、景観類型別指針を踏まえた「より良い景観検討のための景観配慮事項」への対応と、具体的に配慮・検討した内容を記入する。		
✓	より良い景観検討のための配慮事項	配慮・検討した内容
☑	地域の歴史、文化的要素を効果的に取り入れた計画を探る。	周辺地は、西畦野下ノ段・井戸遺跡が発見されており、当該公園では歴史サインの設置及び、公園施設には石材の活用や落ち着いた色彩の舗装材を取り入れた。
☑	園路は、土や石材、木材等の自然素材や落ち着いたきのある敷材を用いるなどして、周辺景観や園内の緑との調和に配慮する。	園路舗装は、透水性の落ち着いた色彩の舗装を選定し、緑地帯との調和を行った。
☑	柵、照明柱等は、過度な装飾や高彩度色は避け、シンプルな形態、意匠とし、園内の緑景観や周辺景観との調和に配慮する。 【具体的配慮事項】 支持柱等の色彩 ダークブラウン 10YR2.0/1.0 程度	既設の柵を利用したのと、新たに設置する公園施設は、緑景観や周辺環境に配慮し、ダークブラウン等の落ち着いた色彩を取り入れ、統一感のある景観の形成を行った。
☑	公共サインは、自然素材の活用や、シンプルで落ち着いた形態、意匠を検討することで、園内の緑景観との調和が図られる計画を探る。	園名板は、木材を使用し、園内の緑景観との調和を行った。
☑	ベンチなどの休憩スペースは、園内の緑景観や周辺景観を眺めることのできる視点場として、落ち着いたきのある空間となるよう配慮する。	シンボルツリーの周辺や植栽エリア周辺の要所にベンチを設置し、憩いの空間を形成した。
	敷地内建築物は、自然素材の活用を検討するとともに、シンプルで落ち着いた形態、意匠を検討することで、園内の緑景観や周辺景観との調和が図られる計画を探る。	該当なし

維持・管理段階（各事業共通）	
項目 1	景観形成の指針を把握する。
項目 2	共通指針（全体指針 A-1～A-5、C-1～C-4）の内、本事業で特に配慮する指針と具体的に配慮した（する）内容を記入する。
（例） C-3	（例） 当初デザインの意図を踏まえた材料を用いて補修を行う。
C-2	当該公園の維持管理計画を作成し、地域住民による維持管理活動の支援を行うなど、行政だけでなく自治会等と連携し、景観維持・保全を行う。

竣工写真

新名神高速道路高架下公園整備工事

番号



番号



竣工写真

新名神高速道路高架下公園整備工事

番号



番号

